

目と手と耳でここまでわかる

フィジカルアセスメントガイドブック 第2版

山内豊明＝著

定価2520円(本体2400円+税5%)
医学書院 ☎03-3817-5657



本書は、2005年の初版から6年目に発行された第2版である。2005年当時は、フィジカルアセスメントの重要性が指摘され始めた時期であり、これを学ぼうとした人なら一度は初版本を手に取ったことがあるのではないだろうか。私自身も、本書の初版に出会って、その魅力にとりつかれ、今でもすぐ手が届く場所に置いている。

私が初版を購入したとき、もともと気に入ったのは「構成」であった。当時、私は訪問看護師にフィジカルアセスメントの教育するためのテキストを探していた。そして、同書の「Part1 症状・徴候からアセスメント」に感激した。

一般的なフィジカルアセスメントの本

は、まず身体各部のフィジカルイグザミネーション(身体診療)が解説されているものが多い。しかし、「胸が痛い」「フラフラする」といった患者の言葉から始まる構成は、まさに看護師が日常出会う場面が示され、「Part2 身体機能別のアセスメント」への学習とつながり、もともと使いやすい、役立てやすいテキストとして、私の大切な一冊になっていた。

看護師がフィジカルアセスメントを行なう意義がわかる！

さて今回、第2版では、どこが変わったのか。嬉しかったのは、「本書を読む前に」と題された冒頭の部分。とかく混同しやすいフィジカルアセスメントとフィジカルイグザミネーションの違いをすっきりと解説し、看護師がなぜ学ばなければならぬかが要約されている。この4ページを読んだだけでも、「そう、そう、そう」と納得の連続だった。

また、Part2には、いくつかの変更がある。Part2の最初に「基本技術」として視診・触診などの技術がまとめられ、初版よりもずっと読みやすくなった。それに続いて、新たに呼吸系と循環系をまとめて解説する項ができた。初版でも著者はこのことを述べていたのだが、項目

として独立させることでより著者の考えが伝わり、だって、胸には心臓も肺もあるものね」と共感する。

細かい点では、循環器系の「心不全のサインを見逃さない」という項目に「やっただあ」と拍手したい気分だった。「見逃さない」って、なんてびったりの言葉だろう。急性期病院でも、施設・在宅でも、高齢者が多くなり、心不全を発症する患者が、それはそれは多い。療養上の世話をしながらしっかりとこの徴候をとらえ、診療の補助として医師や患者・家族に速やかにわかりやすく自分の判断を伝え、そしてQOLの低下を防ぐ医療へつなげる。これこそ、看護師がフィジカルアセスメントを行なう意義だと思ふ。

第2版は、イラストや見出しの工夫で、看護学生や新卒ナースにもよりわかりやすく親しみやすい印象になった。もちろん、学生時代にフィジカルアセスメントを学習しなかった熟年世代の訪問看護師には、必須図書として手元に置いてほしい。

本書の装丁は、真っ白の綺麗な表紙。初版の焦げ茶色に比べると、手あかの汚れが目立つのが気になるけれど、汚れてグレーになるまで使われれば、本も嬉し